

# 動かせ、平塚。

## 選ばれるまちへ。2期目スタート

昨年4月、落合克宏市長2期目の市政運営がスタートしました。全国的に少子高齢化、人口減少が進むなか、落合市長は選挙戦で「選ばれるまち、住み続けるまち」をテーマに5つの方針（丸数字で記載）を掲げました。「地方創生」を先取りした、安心して出産・子育てができる環境づくりや、安定した雇用の確保など、5つの方針の中から、これまでの取り組みを紹介します。

### ①子育て世代から選ばれるまちに

まちを持続させていくには、社会を支える働く世代が欠かせません。充実した高齢者施策を続けるためにも、また、高度成長期に建てられた数多くの公共施設を維持管理していくためにも、「子育て世代から選ばれるまち」をめざしていきます。

#### 待機児童を解消

女性の社会進出の増加とともに、保育所の待機児童や、支援を必要とする児童・生徒は増えています。待機児童については、民間と連携し昨年4月に平成23年以来2回目となる待機児童ゼロを達成できました。引き続き、民間保育所の建て替えや私立幼稚園の認定こども園化などを支援して受け皿を拡大するとともに、公立幼稚園・保育園を一元化した認定こども園化などを進め、保育



所の待機児童解消に取り組んでまいります。

#### 育休退園を見直し

保育所に通う0〜2歳児の母親が下の子どもを出産して育休休暇をとる場合、平成10年ころから園児には退園してもらっていました。これはほかの待機児童を入園させるためでしたが、多様化する保育ニーズに対応するため、今年4月からこの基準を事実上「撤廃」します。

#### 小児医療費の助成拡大

近隣市町に先駆け、平成24年度から無料化の対象を小学校6年生に拡大しました。さらに、今年4月から中学生まで拡大します。

#### 学力向上を提言

今年度から始まった「総合教育会議」などの場を通して、教育委員会に子どもたちの「学力向上」を働きかけています。

また、昨年度に続き今年度も、夏休みに学習支援事業として「自主学習教室」を開きましたが、抽選となるほど希望者が多く集まりました。

#### 教育マンパワーの充実

小・中学校へのサン・サンスタッフ派遣事業として、一昨年9月に10名増員し、学習支援補助員は110名、学校司書は43名となっています。この数を維持し、児童や生徒一人一人に応じた指導の充実や、学習活動及び読書活動の充実を今後も図ってまいります。

#### 「小1の壁」対策

学童保育の定員を増やしていきます。今年度は2クラブ増えて、市内39クラブとするなど働く女性を支援します。

# 健康チャレンジで介護予防

市内には100歳以上の方が110人もいらっしゃいます。ご長寿の方が大勢いらっしゃることは本市の誇りです。

これからも市民の皆様がいつまでも元気でいられるよう、介護が必要になる前から、また、たとえ介護が必要になっても、楽しみながら健康長寿に向けて挑戦することができるように、介護予防を「健康チャレンジ」と位置づけました。医師の講話や、専門職による相談事業等に加え、体操や脳トレ、カラオケなどの機材を貸し出すなどして、健康チャレンジに取り組むためのサロンの開催を支援していきます。

## ② 高齢者・障がい者福祉を推進

医療、介護、予防、住まい、生活支援サービスを、住み慣れた地域で切れ目なく提供する仕組みとして、「地域包括ケアシステム」の構築を最重要課題としています。この取り組みには、市、地域各種団体、医療機関、介護サービス事業者及び高齢者よる相談センターなどの連携が重要なため、その第一歩として「医療連携懇話会」を立ち上げました。

一方、特別養護老人ホームは、平成29年度までに220床を整備する目標を掲げています。

介護保険では、法改正に伴う新しい地域支援事業を、今年1月から始めました。

まず、生きがい事業団が家庭を訪問して清掃などの家事援助をするサービスを開始。また、町内福祉村による住民主体の支援も介護保険の

対象として展開していきます。

また「障害者差別解消法」が今年4月に施行されます。昨年7月には全国初となる「広域型の障害者差別解消支援地域協議会」を内閣府と連携して湘南西部圏域で立ち上げました。この協議会で、相談体制など様々な事項を協議していきます。

## ③ 地域経済の活性化

昨年3月、さがみ縦貫道路が全線開通し、国道134号の4車線化が完了しました。市内では今年10月に開業する予定の(仮称)ららぽーと平塚を中心にして、医療施設や住居などからなる新しいまちが生まれます。大神地区では、シンシティのまちづくりが土地区画整理組合によって始まりました。

一方で「あざつゆ広場」や「漁港の食堂」、進和学園のトマトジュースやみかんパンなどをはじめとして、新たな活気も生まれています。こうした動きを着実に推進し、新た

な産業の育成、生産設備への投資、中心商店街のにぎわい創出などのために、企業活動や創業への支援、6次産業化などを支援して、地域経済の活性化とともに雇用の確保を図っていきます。

## ④ 安心・安全なまちに

災害に強いまちであることは、市民の皆様が安心・安全に暮らすための基礎となります。特に発生が危惧される大規模地震に対する備えを強化するとともに、行政、関係機関として市民の皆様が一体となり、地域ぐるみで被害を最小限にとどめるための対策を講じていきます。

近年、多く発生している局所的な大雨に対しては、「平塚市総合浸水対策基本計画」に基づき、排水施設の整備や河川のゲート改修、土のうステーションの増設など、浸水対策を引き続き進めています。

また、自転車に関係する交通事故を減らすための対策を進めるとともに、市民の皆様が日常生活の中で安心・安全を実感できるように、地域の防犯対策にも取り組んでいきます。

## ⑤ シンシティプロモーション

平塚の魅力や地域資源を磨き上げ、新たに発掘・創出し、市内外に発信していくシンシティプロモーションに取り組んでいます。市民のまちへの誇りや愛着を育み、交流人口の増加、定住人口減少の緩和などをめざします。昨年

## 「全体最適」で、行財政改革を推進

将来にわたり市民の幸せな暮らしを支えていくためには、経営資源を効率的、効果的に活用し、より質の高い行政サービスを、より低いコストで提供していく必要があります。

中長期的な展望と成果を重視した行財政運営を進めるとともに、市全体の立場から物事を進める「全体最適」の考え方のもと①事務事業の見直しにより「選択と集中」を進め、②新たな独自財源を確保し、③民間企業や市民の皆様と一緒に社会全体で幸せを目指します。

6月から担当課長を配置して、マスコミへの売り込み、ロケ地誘致などを進めています。11月には、市内165の飲食店を紹介する「ぴあ平塚食本」が発刊されました。

平塚市には「七夕まつり」をはじめ、湘南平やビーチパーク、美術館や博物館、バラや囲碁など誇れる資源が数多くあります。J1で活躍する湘南ベルマーレ、県内で22年ぶりの関取となった朝井慶閑など、明るく嬉しい話題も多く生まれています。

また、伊豆や箱根へのアクセスも良く、東京や横浜への通勤にも便利な位置にあります。充実した高齢者福祉や子育て環境など、「住みやすさ、暮らしやすさ」などと合わせ、本市の魅力を発信してまいります。